

トンガ王国の障害者施設における 歯科医療ボランティア活動

○遠藤真美^{1,2)}・河村康二^{2,3)}・河村サユリ^{2,3)}・
Sisilia Fusi Fifita^{2,4)}・竹内麗理^{2,5)}・小林清吾^{2,6)}・
妻鹿 純一¹⁾

- 1) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
2) 南太平洋国際医療隊
3) 河村歯科医院
4) 日本大学松戸歯学部口腔病理学講座
5) 日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座
6) 日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座

緒言

南太平洋国際医療隊（会表：河村康二）は1998年に発足し、トンガ王国で歯科医療ボランティアを行っている。2002年には、トンガ王国国内の歯科現状の調査を行い、本島トンガタブ島ではDMFTおよびう蝕有病者率が高く、う蝕治療率は低いことを報告している。以上からボランティア内容は、主にヘルスプロモーションの考え方から現地歯科医療スタッフ（現地スタッフ）と協力して地域に対する食事・栄養改善、学校保健システムの確立および予防歯科保健システムの推進を目的としている。具体的には、幼稚園と小学校でのフッ化物洗口や保健教育、住民に対するオーラルヘルスフェスティバル開催などである。学校歯科保健事業に関しては、現地スタッフが通年で継続をしている。これらの活動は、2006年にJICA草の根技術事業（草の根協力支援型）に採択され、JICAとの協力事業となった。

2005年からは南太平洋国際医療隊が今まで対象としていた住民の枠を広げ、同隊の活動の一環として障害者施設においてもボランティア活動を開始することになった。今回、障害者施設における活動内容、問題点ならびに将来の展望について報告する。

活動内容

障害者施設利用者が歯科に関する保健活動や医療を受けられることを目的に、現地スタッフおよび施設職員へ教育と現地スタッフと施設の連携作りを目的に支援を行っている。

対象施設は、トンガ王国の障害者施設である。トン

ガ王国には通園施設と入所施設がそれぞれ1施設ごとあり計2施設である。通園施設は曜日ごとに利用者が変わる主に発達障害児・者のクラスと毎日制の聴覚障害者のクラスがある。入所施設は19人が生活をしている。

ボランティア活動内容を以下に示す。

1. 現地スタッフおよび施設職員に対する障害者歯科学に関する知識普及
2. 歯科健診
3. 口腔ケアに関する支援
 - 1) 歯ブラシ、歯磨剤などの材料寄付
 - 2) 本人、家族および職員に対してケア方法の指導
4. 食事に対する支援：
 - 食内容および食環境指導、リハビリテーション
5. 現地にボランティアとして滞在中の専門職種と協力し本隊が帰国後も継続して支援できる体制作り

問題点

1. トンガ王国における障害者の現状は明らかではない。加えて障害者と医療との関わりも少ないため、家族および施設職員でも対象者の疾患などを把握できていないことが多い。従って、接し方やケア計画の立案に苦慮することが多くある。
2. 施設での活動は他の事業と異なり、年に数回のみの支援であり意識の継続には困難を要している。
3. トンガ王国は大小の島々が諸島を形成している国であり、本島以外に障害者が利用できる施設はない。そのため、離島での障害者の現状は不明で、国全体の障害者の支援へとつながるには時間がかかると予想される。
4. 国際ボランティアの専門職種は滞在期間により継続した連携を取ることが出来ない場合もある。

将来の展望

今後も継続した支援を行い、障害者施設に対する活動開始5年後の2010年には現地スタッフが障害者の施設と定期的な関わりをもてるシステムを構築し、加えて利用者も問題が生じた場合に病院に抵抗なく通院出来るような連携作りを支援していきたい。

謝辞

南太平洋国際医療隊の活動にご理解を頂き、材料を提供していただいていたライオン歯科材株式会社、ビーブランドメディコデンタル、サンスター(株)様に感謝いたします。